

IAUD Newsletter vol.8 第7号(2015年11月号)

1.ワークショップ委員会「48時間デザインマラソン in 東京」開催報告	1
2.余暇のUDPJ「CM字幕意見交換会」開催報告	7
3.UD 検定中級検定試験及び初級講習会 & 検定試験 大阪開催のご案内	10
4.IAUD 11月の予定	11

公開プレゼンテーションに瑤子女王殿下ご臨席

特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in 東京」開催報告

IAUD のユーザー参加型特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in 東京」が、9月9日(水)から9月11日(金)の3日間、芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で開催されました。

最終日に東京東信用金庫本部 10階ホール(東京・両国)で行われた公開プレゼンテーションには、IAUD 総裁の瑤子女王殿下にご臨席賜り、48時間デザインマラソンの今後の活躍と次のステージに繋げてほしいとの期待のお言葉を頂戴しました。

今号の Newsletter では、運営したワークショップ委員会に3日間の様子と各チームの提案デザインを報告していただきます。



最終日の公開プレゼンテーションの様子

下町から 2020年のオリンピック・パラリンピックを見据えたデザインを

「48時間デザインマラソン」は、UDの普及啓発と次世代のUDを担うリーダーやデザイナーの人材育成、さらには新たなデザイン開発手法を探求する場の目的で、2004年からフィールドリサーチと体験実施型として行われてきました。

第10回目となる今回は、(株)浜野製作所のご協力、芝浦工業大学、墨田区、東京東信用金庫のご後援を得て、「東京の下町から未来のデザインを」をテーマに行われました。

参加した企業デザイナーや障害のあるユーザーなど54名は、AからFまでの6チームに分かれ、48時間という制限時間の中、墨田区でのフィールド調査から課題を発掘し、2020年のオリンピック・パラリンピックを見据えた生活に密着した街や暮らしのあり方をデザインしました。

また、最終日の公開プレゼンテーションには、墨田区内の約70社の製造業関係者の方々にも参加いただき、実際の事業としての可能性も協議を進めることが出来ました。



会場の芝浦工業大学芝浦キャンパス(左)と東京東信用金庫本部

48時間で現場調査からデザイン、プレゼンテーションへ

1日目：9月9日(水) @芝浦工業大学芝浦キャンパス

09:45～10:30 事前ミーティング

10:30～11:10 開会式：

今回のテーマとユーザー参加型ワークショップの狙いを共有。

監修には金沢美術工芸大学名誉教授の荒井利春氏、運営協力には芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授の橋田規子氏をお迎えしました。

11:15～12:00 チーム会議

12:00～17:00 フィールド調査：

各チームはユーザーと共に墨田区内を歩き、生活シーンでの普段見えない課題を発見。



各チームはユーザーとのフィールド調査で課題を発見

17:00～18:30 浜野製作所見学及び

浜野社長とのディスカッション：

浜野製作所は墨田区の金属加工メーカー。地域と産学官連携による新しい事業や、地域の工場資源を活用した活動など、墨田区をものづくりのスタートアップの聖地にすることを目指しています。

今回は工場見学から具体的な提案アドバイスまで、実業家視点からサポートしていただきました。

19:30～20:30 各チーム調査概要発表



浜野製作所を見学する参加者たち

2日目：9月10日(木)@芝浦工業大学芝浦キャンパス

09:00～21:00 チーム作業：

コンセプトメイキング、デザインの具現化と検証、プレゼンテーション内容を準備。



熱心に作業する各チーム

3日目 :9月11日(金)@芝浦工業大学芝浦キャンパス、東京東信用金庫本部 10階ホール

08:00~11:30 チーム作業

15:00~15:15 公開プレゼンテーション 開会式:

瑠子女王殿下ご臨席の中、約70社の墨田区を拠点として活躍する製造業関係者やメディアなど220人が参加しました。

清水隆明 IAUD 理事長による開会の挨拶の後、東京東信用金庫理事長の澁谷哲一様、墨田区長の山本亨様よりご挨拶を頂戴しました。

15:15~17:00 チームプレゼンテーション:

各チームは7分間、提案するデザインのプレゼンテーションを行いました。



ご高覧なさる瑠子女王殿下



満員となった会場



登壇するチーム発表者

17:00~17:30 ディスカッションと講評:

監修の荒井教授の総評の後、浜野社長と橋田教授からも今後の進め方のアドバイスを頂戴しました。

また、各チームには48時間デザインマラソンに参加し魅力的な提案を成し遂げた証として、バッチを授与しました。

17:30~17:45 チーム投票と発表:

墨田区内の製造業の方々に「ベストプレゼンテーション賞」と「ベストビジネス賞」を選んでいただきました。

今後も各製造業の方は、実際のビジネスに向けて具体的な検証を行っていきます。

17:45~18:00 閉会式:

閉会のご挨拶として、IAUD 総裁の瑠子女王殿下より、48時間デザインマラソンが新たなステージを迎えることへの期待、及び若手デザイナーが障害者との積極的な創造活動に対する姿勢への温かいご支援のお言葉を頂戴しました。

18:45~20:00 懇親会:



ご挨拶なさる瑠子女王殿下



←各チームとワークショップ委員会のメンバー

斬新なデザインを提案した各チームの発表内容

A チーム:「下町のれん」

～誰でも楽しく“まちブラ”ができる

弱視であるユーザーからの「目的を持って買い物に行くのは簡単だが、目的のないウィンドショッピングなどは苦手」という意見から気づいた問題点は、「何のお店かわからない」「売っているモノがわからない」「話しかけてもらわないと店員とコミュニケーションを取れない」。これは、お店にとっても機会を損失していると言える。

そこで、のれんを触ることによって、店の象徴的なアイコンが出てきて店がわかる仕組みを提案した。

スマートマテリアルという、プロミグラミング・電子操作で可変性を実現する技術を使用。音や匂いを出したり、革などに生地を変えてその店の特長を出す。

お店と客を一番最初につなぐ接点であるのれんと、最新のテクノロジーを組み合わせることによって、新しい出会いを提供することができる。のれんが、人と街をつないでいく。



B チーム:壁を無くす壁「trans creen」

～言葉に壁を感じている人に乗り越えて欲しい

受付などでチケットを買うとき、施設スタッフが手元を見て話してしまうと難聴のユーザーは口元が読み取れず、また受付スタッフは話す内容が伝わっていないのではという不安があり、コミュニケーションが取れていない。

そこで、ユーザーと受付スタッフの不安を解決することで、お互いがハッピーになれる受付カウンター対話支援デバイスを提案した。

対話の視線を遮らない切子ガラスウィンドウで、顔を合わせることができるのが特徴。公共施設や小売店のカウンターに設置したい。

①受付スタッフ: 音声→文字

ユーザー: 手書き文字→文字(筆談)

②外国人観光客: 音声→文字→翻訳

B チームのプレゼンテーションは「ベストビジネス賞」に選出されました。



C チーム:「OMOIYARI WAVE」 ～仲間を見つけられる ありがとうを感じられる

車椅子ユーザーとのフィールド調査で、少しの手助けが必要なシーンがたくさんあり、お手伝いしたいけど、お手伝いしにくい状況という課題を発見。

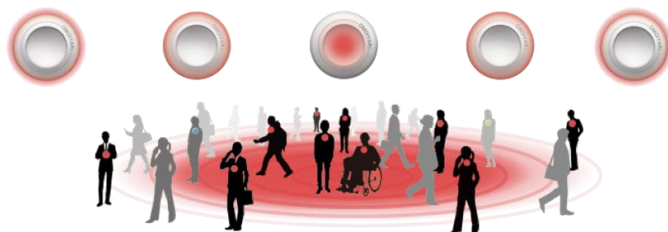
同じ気持ちの仲間がいることがわかることで、手を差し伸べるきっかけをつくれるのではないかと。

そこで、みんなが助けあう社会、思いやりマインドを定着させる未来を作ることを提案した。

OMOIYARI WAVE は、思いやりの意思に賛同した人々が身に着ける意思表示デバイス。思いやりが起こった地点を中心に光と振動で、周りの人々へ伝えることができ、内なる優しさが表面化して波及していく。

思いやりのあふれる日本をつくりたい。オリンピックを起点として、助け合いの精神、マインドを定着化して、そんな未来を作っていきたいと考えている。

OMOIYARI WAVE



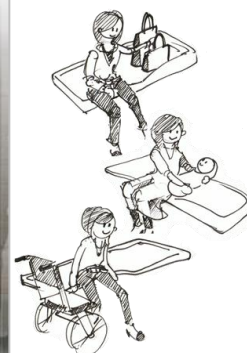
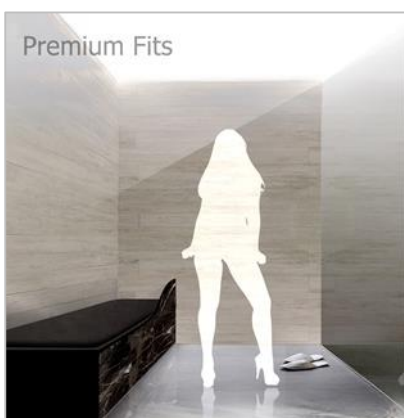
D チーム:「premium fits」 ～全ての人に上質な試着体験を

当初は車椅子対応の試着室を検討したが、車椅子ユーザーの「障害を持つものとしてではなく、一人の人としてみてほしい」という思いから、全ての人が幸せに使える試着室を考案。

一般的な試着室を 45cm 拡張するだけで、車椅子が入れるスペースになる。

さらに、拡張したスペースには座って試着できる長椅子を置く。長椅子は車椅子やベビーカーが寄せ易い形状にし、物が落ちにくいよう縁を設け、簡易ベットしても使用可能とする。また、服本来の色がわかる照明も設置する。

「すべての人が垣根なく豊かな時間を過ごせる」。この考えを日本全体に広げることで、オリンピック、その先の未来の人の笑顔をみることができる。



E チーム:「ひとみみぼれ」

～寄り道することの楽しさを知ってもらいたい

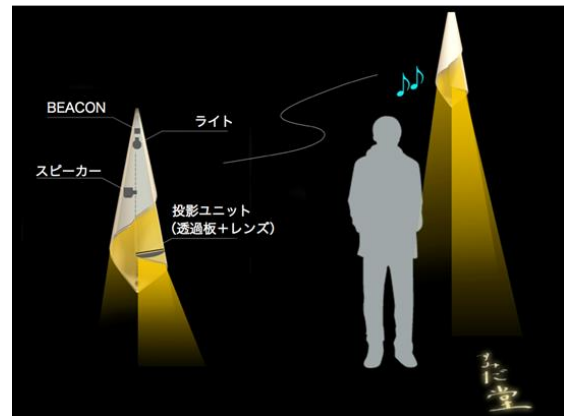
全盲のユーザーからの「目的地に迷わず行ける仕掛けがほしい」という要望、及びユーザーは事前に調べた目的の場所のみに出掛け、寄り道をする事ができない点に注目し、寄り道を促すツールを提案した。

「ひとみみぼれ」は、視覚障害者にも寄り道の楽しさを音によって知ることができるアプリケーション。

行ってみたい場所を入力しておく、近くを通るとき行ってみたい店の音が鳴り、寄り道を楽しむきっかけをつくることができる。

また、見える人も、新たなお店の発見につながり、見える人と見えない人とが共有できる。

投影ユニットのデザインは墨田のものづくりから考え、あえて固く重たい素材を軽やかに見せることを行った。



F チーム:声が見える補聴器「SeeVo (シーヴォ)」

～日常生活に吹き出しを

視覚障害者のユーザーの要望は、日常で自然に皆の輪に入ること。筆談では全員とコミュニケーションするのが難しく、場所を選んでしまう。

そこで、いつでもどこでもみんなとコミュニケーションを取るために、「声が見える補聴器」を提案した。

この補聴器では、ユーザーが求める文字の情報と手話の情報を同時に得ることができる。

デザインで大切にしたいことは、日常のくらしに自然に溶け込む見た目と、みんなの会話がリアルタイムに分かるユーザーインターフェイス(UI)。

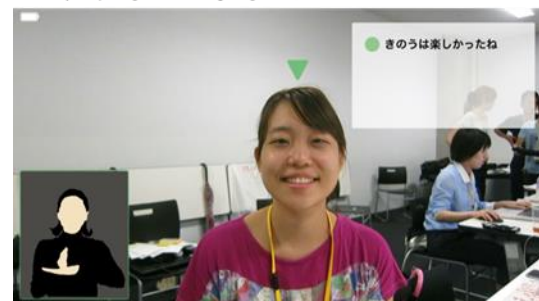
UI デザインでは、会話のテキストと同時に手話通訳するCGを表示。また、話者の頭上にマークの表示、視界外からの発言も発見できるようにアイコンも表示する。

2020年、SeeVoはきっと外国の人と話す助けになる。そして、僕らもいつか歳をとる。その時、SeeVoがきっと僕らを助けてくれる。

Fチームのプレゼンテーションは「ベストプレゼンテーション賞」に選出されました。



UIデザインのポイント



字幕付き CM の更なる理解と普及へ 余暇の UDPJ 「CM 字幕意見交換会」開催報告

「テレビ CM にも字幕を」をテーマに活動している余暇の UD プロジェクト主催の「CM 字幕意見交換会」が、9 月 16 日(水)に IAUD サロン(東京・八丁堀)で開催されました。

当日は同 PJ メンバーや当事者、実際に字幕付き CM を提供している企業関係者など 17 人が参加し、有意義な意見交換が行われました。

今号の Newsletter では、当日の様子を同 PJ 主査の土屋亮介氏に報告していただきます。



CM 字幕意見交換会の様子

CM 提供企業と当事者がダイレクトに意見交換できる場を

現在、多くの企業が字幕付き CM のトライアル放映に参加されており、本格普及に向けて大きく動き出そうとしております。

しかし、当事者の中には、「字幕付き CM を見た印象を広告主にどんな方法で伝えたらいいのか分からない」「字幕付き CM に関する情報が少なすぎる。今後の展開などを直接広告主にお聞きしたい」という方もいらっしゃいます。

一方、広告主である CM 提供企業からも、「字幕付き CM を作ってみたが、本当に伝えたいことは伝わっているのだろうか」「CM 字幕を放送しているけど、当事者の感想を聞く機会がほとんどない」という声が聞かれます。

そこで、余暇の UDPJ では実際に字幕付き CM を提供している IAUD 会員企業の方々と当事者の間で意見交換の場を設けることにしました。

今まで接点のなかった CM 提供企業と当事者がダイレクトに意見交換することで、普段からお互いに知りたいと思っていたことについて議論することにより、字幕付き CM の理解と普及に貢献することが狙いです。

CM 字幕制作の苦労話も

まず、主査の土屋から今回の意見交換会の趣旨について説明いたしました。

続いて、副主査の松森果林氏より CM 字幕の現状について説明がありました。どのくらい放送されているのか、クローズドキャプション(CC)とオープンキャプション(OC)の違いなど、字幕の基本についての説明がありました。



その後、当事者の皆さんから自己紹介と CM 字幕に関する思いをお聞きしました。

ご家族に耳の不自由な方がいらっしゃって、何とか疎外感をなくしたい、あるいは今まで CM を見なかったが、字幕が付くようになって CM を見る頻度が増えたなど、当事者ならではのご意見が聞かれました。

←CM 字幕に関する思いを述べる当事者

続いて、広告主として今回ご参加いただいたCM提供企業2社から説明がありました。

まずは、実際に放送している字幕付きCMを当事者に見ていただき、分かやすいか、作り手の狙いが伝わっているか、購買意欲につながっているか、などの意見を伺いました。

また、CM字幕制作の工夫や苦労話、CM字幕に関する今後の展望などをお話いただいたほか、CMを作る立場として当事者の方へお聞きしたいことを率直に聞いていただきました。



字幕付きCMを参加者と鑑賞

花王株式会社 作成部門 クリエーティブ プロデュースセンターからは篠崎隆久氏にお話しいただきました。

篠崎氏は2011年よりこれまで字幕担当として進めてこられました。

有名な俳優を使う場合はみな名前をわかってくれるが、そうでない方の場合、字幕で名前を出すべきか悩みどころだそうで、制作するサイドにはさまざまな悩みがあると気づかされました。

また、字幕表示位置について、テロップを避けると俳優の顔にかぶる場合もあり、そのようなケースにおいての当事者の生の声を、熱心に出席者にお聞きになっていました。



説明する篠崎氏

東日本旅客鉄道株式会社からは吉越大悟氏と目黒くみ氏にご参加いただきました。

同社は2013年の「大人の休日倶楽部」よりCM字幕トライアルを行っており、現在はフジテレビの「タビノイロ」で字幕付きCMを放送中です。

CMの前後1秒には字幕が入られないルールや、音楽シーンなどの字幕表現に苦労されたとのこと。

今回の意見交換会で、吉越氏は勉強中の手話を使って熱心に説明していただき、耳の不自由な方にも情報を届けたいという熱い思いが感じられました。



説明する吉越氏(中央)

CMに字幕が付くのが当たり前の社会に

最後に参加者全員で全体意見交換を行いました。

当事者の方たちからは、普段疑問に思っていたCM字幕に関する質問や、貴重なご意見ご要望を数多く出してくださいましたので、一部をご紹介します。

・今までCMは(録画して)飛ばして見ていたが、字幕が付くようになって、よくCMを見るようになった。

・CM字幕の表記方法、(最初から出ているOCとCCのバランスやつながり)をもう少し工夫できないか。

・心の声とナレーションの区別が(声が聞こえないため)つきにくい。

・「」をつけるだけで話してるのが分かる。

・話題になる音楽や歌詞も知りたい。

・地名などにルビがふってあると分かりやすくて良い。

・最初と最後の1秒に字幕が付かないが、ここだけオープンにする工夫はできないか。

・企業のホームページにも字幕がほしい。

・このような(字幕付与の)取り組みは株主総会でもアピールしたらどうか。

・他の企業にももっと(字幕付与の取り組みは)頑張ってもらいたい。

・CMに字幕が付くのが当たり前の社会になってほしい。

・1秒ルールについての説明は、初めて知って目からウロコだった。

・各企業への反響が届くように、サイトの問い合わせ先などにもアクセスして、気持ちを伝えていこうと思った。

・こうした課題こそ、当事者としてもっと関わっていききたい

・録画機能の中に、「オートチャプター機能」というものがあり、通常CMはスキップされるけど、字幕がついているCMは飛ばされないの、じっくり見ることができるし、差別化をはかれるのでは。

また、閉会にあたり木暮毅夫部会長より、「企業はライバル同士であるが、このようなユーザーの声はもっと協力して拾えると思う。IAUDとして、企業間やユーザーとのつながりに役立つような会を今後も続けていきたい」との話がありました。



当事者からは貴重な意見が出された



挨拶する木暮部長

CM 提供企業と当事者との理解向上へ

今回の当事者を招いての意見交換会は、普段見ている字幕付きCMに対する意見が当事者の視点ということもあって、画面を通してどのように感じているのか、見ているのかがよりよく理解でき、得るものもたくさんあって、大変良い場だったと思います。

CM提供企業からも、企業の立場やCMへの思い入れなどを丁寧に分かりやすく説明頂き、当事者も初めてCM制作サイドの苦勞について一定の理解を得られたようです。

出席者からは、「参加出来てよかった」「今後のさらなる普及に少しでも貢献できれば」「機会があればまた参加したい」という声を頂き、主催者として大変嬉しく思っています。

双方の理解向上により、ますますCM字幕が普及していくことを期待しております。(了)



参加した余暇のUDPJメンバーと
CM提供企業の皆様



大阪開催！オリンピック・パラリンピックのヴォランティアに役立つ 第3回 UD 検定・中級検定試験及び 第9回 UD 検定・初級講習会 & 検定試験開催

IAUD は第3回 UD 検定・中級検定試験、第9回 UD 検定・初級講習会 & 検定試験を NEC 関西ビル(大阪・京橋)にて下記の要領で実施します。

多くの方々のご参加をお待ちいたしております。詳細は各リンクを御参照ください。

「第1回 UD 検定・中級」試験会場の様子
(東京・芝)



第3回 UD 検定・中級 検定試験

日時: 2015年12月1日(火) 9:30~11:30

試験問題は公式テキストブックに準拠して出題します。

合格後、「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

<http://www.iaud.net/event/archives/1510/22-150000.php>

第9回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験

日時: 2015年12月1日(火) 13:00~16:00

講習会(2時間)とUD 検定・初級試験(1時間・50問)のセット形式で実施します。

合格後、「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

<http://www.iaud.net/event/archives/1510/22-140000.php>

また、中級の受験に必須となる UD 検定・中級公式テキストブックも好評販売中です。

本書は各専門分野の第一線で活躍する方々が執筆し、具体的な事例を含めた広範な UD の知見をまとめました。UD 検定・中級の試験問題は本書に準拠して出題されます。

また、検定受験者だけでなく、すべての人にとって使いやすい商品やサービスを提供したい、住みやすいまちづくりをめざしたい、とお考えの方々にも非常に役立ちます。UD に関心のある方は、ぜひ本書をご利用ください。

公式テキストブックの詳細は以下をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1410/14-000000.php>



UD 検定・中級公式テキストブック

月	火	水	木	金	土	日
2	3 文化の日	4	5	6 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	7	1 /8
9	10	11 15:00～ メディアの UDPJ @CUDO 事務所	12	13 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン 15:00～ 住空間 PJ @住友林業	14	15
16	17	18	19	20 15:00～ ワークスタイル PJ @IAUD サロン	21	22
23 勤労感謝の日	24	25	26 14:00～ 研究部会 @IAUD サロン	27 13:00～ 標準化研究 WG @IAUD サロン 13:00～ 余暇の UDPJ @リコー本社	28	29
30						

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。
ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連
イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 12 月発行予定

特集：手話用語 SWG 筑波技術大との WS 開催報告、衣の UDPJ 東北セミナー開催報告、
メディアの UDPJ 企業視察会報告(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net